

フットケア外来患者の下肢の不定愁訴に対する当帰四逆加呉茱萸生薑湯の効果

喜悦会那珂川病院 血管外科（福岡県） 竹内 一馬

「足は第2の心臓」とも言われ、元気に歩けることは高齢者の転倒予防や心臓血管病の発症予防にも欠かせない。今回、種々の足病変に伴う下肢の不定愁訴を訴える患者25例に対する当帰四逆加呉茱萸生薑湯の効果を検討したところ、良好な結果が認められたので報告する。

Keywords フットケア、糖尿病、冷感、痛み

はじめに

わが国の糖尿病患者数は増加の一途をたどり、中でも多発神経障害および末梢動脈疾患の合併のため、国内の詳細なデータは無いが年間10,000人以上の糖尿病患者が何らかの足切断を余儀なくされている。

「足は第2の心臓」とも言われ、元気に歩けることは高齢者の転倒予防や心臓血管病の発症予防に欠かせない。当院では専門のフットケア・フットウェア外来を開設し、糖尿病足病変をはじめとする、種々の足病変（糖尿病性壊疽、重症下肢虚血、外反母趾、巻き爪、先天性足趾欠損、下肢静脈瘤、リンパ浮腫、冷え症、足の痺れなど）に対する治療を積極的に実施している。

フットケア外来を訪れる患者が訴える愁訴は多岐にわたり、自覚症状として下肢の冷感、しびれ感、痛み、違和感などを伴うことも多い。当帰四逆加呉茱萸生薑湯は冷えの効能効果を持ち、種々の疾患に伴う冷えやしびれなどに対する有用性が多数報告されている^{1, 2)}。

今回、種々の足病変に伴う下肢の不定愁訴に対して、当帰四逆加呉茱萸生薑湯を投与し、良好な結果を得たので報告する。

対 象

2015年9月から2016年5月の間に当科外来を受診した患者のうち、下肢の不定愁訴（冷感、しびれ感、痛み、違和感）を訴え、本調査への参加に口頭で同意が得られた35例を対象とした。そのうち、調査開始後4週間以内に中止・脱落した10例を除外した25例を有効解析対象とした。

方 法

クラシエ当帰四逆加呉茱萸生薑湯エキス細粒（KB-38）

を1回1包（3.75g）、1日2回食前または食間、原則4週間以上の服用とした。併用薬については、当帰四逆加呉茱萸生薑湯以外の漢方製剤は使用不可とした。漢方薬以外の併用薬については、試験期間中は用法・用量を含め原則変更しないこととした。

調査項目

自覚症状として、下肢の冷感、しびれ感、痛み、違和感をVisual Analogue Scale（以下、VAS）を用いて、投与前および投与後に調査を行った。

代表症例については、冷感を訴えた患肢の皮膚温度をサーモフォーカス®プロ（株式会社日本テクニメッド、日本）を用いて測定した。皮膚温度は左右の足拇趾背側中央部を測定した。

結 果

1. 患者背景

患者背景を表に示した。

2. 自覚症状VAS（図1）

「下肢の冷感」は投与前 6.2 ± 3.9 から投与後 4.2 ± 3.7 、「下肢の痛み」は投与前 3.5 ± 4.2 から投与後 1.8 ± 3.2 に低下し、有意な改善を認めた。（ $p < 0.05$ ）

「下肢のしびれ感」は投与前 4.3 ± 4.1 から投与後 4.1 ± 4.3 に推移した。

「下肢の違和感」は投与前 3.8 ± 3.8 から投与後 3.6 ± 3.8 に推移した。

3. 安全性

調査期間中、調査薬剤によると思われる有害事象は認められなかった。

代表症例 73歳、女性(図2)

【主 訴】 下肢全体の冷感、しびれ感

【現病歴】 2015年12月末から左下肢全体にしびれ感を自覚していた。以前から両下肢の凍瘡、右外反母趾もあり胼胝もできやすいことから、2016年3月に当院受診。

【治療経過】 当帰四逆加呉茱萸生姜湯7.5g/日(分2)、ヘパリン類似物質軟膏を処方。4週間後、しびれ感VASが5.1から1.6に改善するも、その他症状は著変せず、服薬継続。12週間後、冷感、しびれ感、痛み、違和感のいずれの自覚症状も完全に消失した。外反母趾に対しては、インソール作製を行った。

考 察

当帰四逆加呉茱萸生姜湯は桂枝湯(あるいは桂枝加芍薬湯)に当帰・細辛・呉茱萸・木通を加えたもので、当帰・細辛・呉茱萸は温める作用が強く、芍薬+甘草は鎮痙・鎮痛作用があるため、冷えそのものばかりでなく、冷えて痛む場合にも適用がある³⁾。

西洋医学的には、末梢血流量を増加させる作用²⁾や血液流動性に対する作用⁴⁾が報告されており、構成生薬である当帰、芍薬、桂皮の抗凝血作用^{5, 6)}、当帰、芍薬の血小板

表 患者背景

性別	男性	7例
	女性	18例
年齢	73.3±9.3歳(52~93)	
原疾患(重複あり)	あり	20例
	糖尿病	3例
	巻き爪	2例
	肥厚爪	1例
	外反母趾	7例
	下肢静脈瘤	2例
	足部痛	2例
	足趾潰瘍	1例
	足部変形	1例
	足底胼胝	1例
	開張足	1例
	腰部脊柱管狭窄症(疑い)	1例
	心房細動	1例
	なし	5例
投与期間	7.2±1.0週間(4~12)	
合併症(重複あり)	あり	7例
	高血圧	2例
	脂質異常症	4例
	脳梗塞後遺症	1例
	甲状腺機能低下症	1例
	ANA関連血管炎	1例
	なし	18例
併用薬剤(重複あり)	あり	8例
	血糖降下剤	1例
	インスリン製剤	1例
	副腎皮質ホルモン剤	1例
	高脂血症用剤	4例
	血圧降下剤	2例
	プロスタグランジン製剤	1例
	甲状腺ホルモン製剤	1例
	なし	17例
併用療法	あり	2例
	インソール	2例
	なし	23例

年齢、投与期間はMean±SDで示す。

凝集阻害作用^{7, 8)}などが寄与しているものと考えられる。

今回、種々の足病変を訴えフットケア外来を受診した患者に、当帰四逆加呉茱萸生姜湯を4週間以上投与したところ、自覚症状として「下肢の冷感」、「下肢の痛み」で有意な改善を示した。また、紹介した症例においては、「下肢のしびれ感」、「下肢の違和感」についても著効を示し、左右の下肢の皮膚温度の上昇が認められた。この皮膚温度の上昇は当帰四逆加呉茱萸生姜湯の末梢血流増加作用²⁾が寄与しているものと思われるが、今後は皮膚組織灌流圧検査(SPP)などを用いた客観的な評価を行いたい。

当科には季節を問わず、年間を通して下肢の冷感などの症状を訴える患者が多く来院する。このような患者が訴える症状は難治例が多く、既存の治療だけでは対応しきれないことが多い。その点、当帰四逆加呉茱萸生姜湯は冷え、しびれ、痛みなどの多愁訴に対する効果が1剤で期待でき、糖尿病足病変をはじめとする種々の足病変に対する治療の選択肢の一つとして有用な漢方薬であると考えられる。

図1 自覚症状VAS

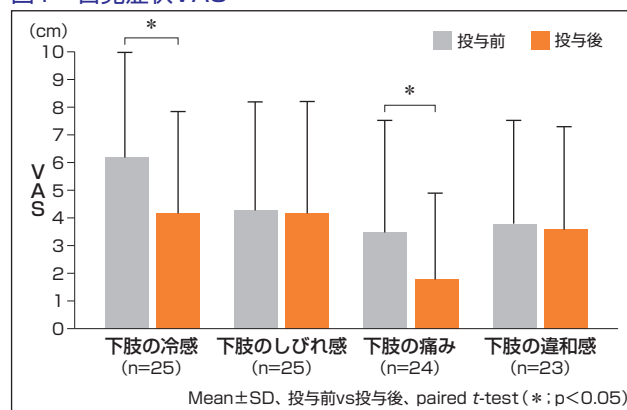
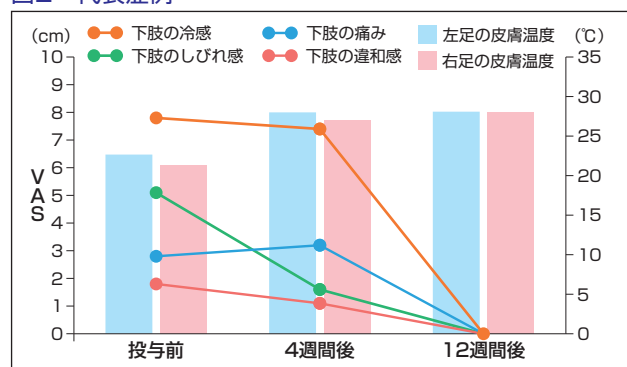


図2 代表症例



【参考文献】

- 岡本仁志: 医学と薬学. 66: 985-992, 2011
- 原 徹: 医学と薬学. 69: 125-130, 2013
- 後山尚久: はじめての漢方100 - 個別医療を実現するためのさじ加減の極意-. 診断と治療社: 158-161, 2013
- 七田 崇: 医学のあゆみ. 234: 551-556, 2010
- 小菅卓夫 ほか: 薬学雑誌. 104: 1050-1053, 1984
- Ishida H, et al.: Chem Pharm Bull. 35: 849-852, 1987
- Toriizuka K, et al.: Chem Pharm Bull. 34: 5011-5015, 1986
- 中村 整 ほか: 血液と脈管. 14: 461-466, 1983